

## エクスプローラー・オブ・ザ・シーズのギリシア諸島クルーズ乗船記(3)

2025.8.15 池田良穂

エーゲ海のミコノス島を夕刻に出港したRCIの「エクスプローラー・オブ・ザ・シーズ」は、いよいよクルーズの帰路につきました。かつてエーゲ海クルーズは、ピレウス発着のギリシア船の独壇場でしたが、今では北米クルーズ運航会社の大型クルーズ客船のイタリア発着エーゲ海クルーズが増えて、行き帰りに終日航海日となるクルーズが多くなっています。

今回のクルーズでは、往路はイタリアのラベンナからエーゲ海に直行しましたが、帰路では発着港のラベンナ港に戻る前に、アドリア海を挟んで対岸にあるクロアチアのスプリット港に寄港することになっていました。スプリットは、いくつかの島で囲われた内海の本土側にある港町であり、たくさんの島通りのフェリーがあると聞いており、筆者にとっては初めての寄港地なので、たいへん楽しみにしていました。

ミコノス島を出た翌朝には船はアドリア海に入り、この日は終日航海。風が強く、海面には白波が立っていたエーゲ海と異なり、アドリア海はベタ凪で、船は18ノットのスピードで北上しました。船上ではゆったりとした時間が流れ、乗客は思い思いにクルーズを楽しんでいました。プールでは恒例の飛び込み大会が開催されて、いかに大きな水しぶきをあげるかを競っていましたし、サーフィンプール、ロッククライミング、スケートなどなど、船上では様々な催し物が繰り広げられました。大きな船だけに船上の楽しみの選択の幅がとても広いのが大きなメリットです。「お気に召すまま」というキャッチフレーズが似合う船と言えそうです。筆者は、最上階のクラウンラウンジで終日、シップウオッティングと読書を楽しみました。今回は、大学の同窓生でもある東野圭吾氏の本を2冊持参しました。

この日の夕食はギャラディナーと銘打ち、前菜、メイン料理、デザートにも工夫が凝らされていましたが、そろそろ食傷気味になっていました。

翌朝6時過ぎには、ブラク島とソルタ島の間の狭水道を通過し、周りにはスプリット港に向かう小型フェリーが何隻か姿を現わしました。スプリット港にはノルウェージャン・クルーズ・ラインの「ノルウェージャン・パール」が停泊しており、その隣に「エクスプローラー・オブ・ザ・シーズ」は反対向きに着岸しました。ちょうど港口近くの停泊でしたので左舷の部屋のベランダからはたくさんの小型客船を見ることができました。

出入港船が一段落した頃、上陸してスプリットの旧市街を散策しました。3世紀頃に建設された部分も残り、ディオクレティアヌス宮殿などを見て回り、路地のレストランで、魚のグリルと、美味しい白ワインでの昼食を楽しみました。市場では、お土産としてピスタチオと乾燥イチジクを購入しました。

船に戻って夕刻になっても小型客船の出入りは頻繁にあり、写真もとったのですが、短距離航路が多く、船名を確認すると朝から何度も撮影した船が多いことが確認でき、シップウォッ칭を終了しました。

夕食後のシアターではフェアウェルメインショーが行われて華やかでした。ただ、オアシス級やクアンタム級などのRCIの新鋭船に比べるとフロアも装置もひとまわり小さく、やはり華やかさでは劣りますが、一生懸命なクルーズディレクターやエンターテイナーには感動させられました。





スプリットに入港する前に朝日があがり、島の間の水道では島通いの小型カーフェリーなどと遭遇しました。



スプリット港のクルーズ客船岸壁には NCL の「ノルウェージャン・パール」が先着して着岸中でした。クルーズ客船用の岸壁は港の外側にあり、防波堤もありません。島に囲まれた内海なので、波の影響の少ないのでしょう。



「エクスプローラー・オブ・ザ・シーズ」のデッキから観たスプリット港内のフェリー乗り場です。たくさんの中型フェリー や高速旅客船が停泊しており、瀬戸内海の離島航路船の港、高松、広島、松山港を似ています。





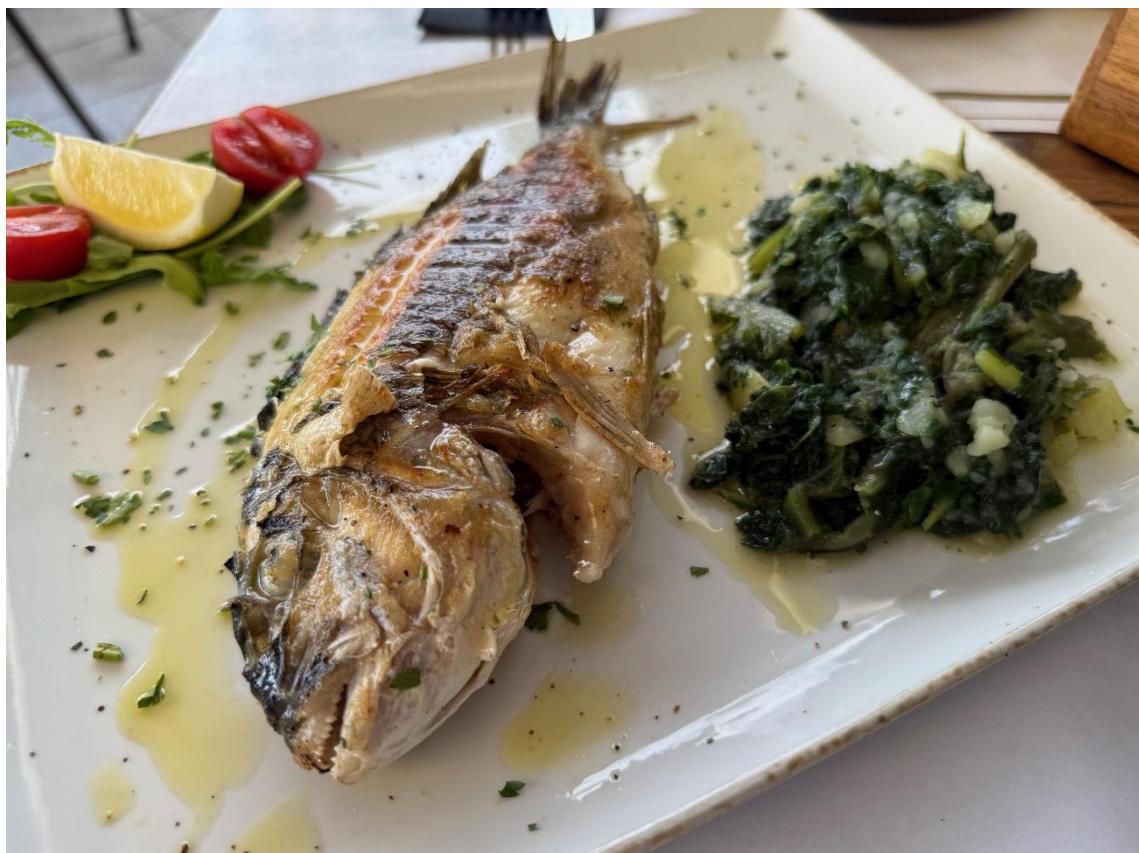




スプリット港の外側に建設されたクルーズ客船埠頭に着岸する「エクスプローラー・オブ・ザ・シーズ」(左)と「ノルウェージャン・パール」。



港に隣接して旧市街が広がり、乗客の多くが散策を楽しみました。



旧市街の路地にあるレストランで魚のグリルを注文して食べました。たいへん美味しかったのですが、醤油を持参していなかったので後悔しました。



ちょっと変わった形の双胴高速旅客船です。



スプリット港の案内図。一番下の岸壁がクルーズ客船用です。



クルーズ客船の横に並ぶ観光用オート三輪車です。



夕方のスプリット港の全景です。





シアターでの最後のフェアウェルショーでは、4人の歌手、8人のダンサー、そして女性クルーズディレクターが勢ぞろいしました。スタッフは部署ごとにビデオ画面に登場して手を振っていました。

クルーズ最終日の土曜日に、船は夜明け前にはラベンナ港に着岸したようです。夜明けとともに、部屋のベランダからは、沖合のオイル基地に向かうサプライボート、入港する船舶に向かうパイロットボートやタグボートが出港していくのが見えました。7時過ぎからは、入港する貨物船の列が続きました。

船からボローニヤまでのバスを予約していたので、8時20分に下船して、テント張りの荷物置き場でスーツケースを受け取り、バスに乗車。ボローニヤには1時間半ほどで着きました。



タグボート



パイロットボート



洋上石油ガス生産基地へ物資を届けるサプライボート。



前後にタグボートを配置して港内を進むバルクキャリアです。



MSC のコンテナ船の入港です。



港内のフェリーによる渡しがありました。



建設中のクルーズターミナルと、まだ未整備のバスの乗り場と待機レーンです。